

上尾市立平方北小学校 令和6年度 学校評価結果及び成果と課題

【評価基準】 A…十分達成している B…ほぼ達成している C…やや達成している D…改善する必要がある

観点	評価項目	評価	○成果 △改善
学校運営	1 「ひらきた Spirits 認め合い 助け合い 高め合い」を基盤に組織で動くことができた。	B	○校務分掌主任が中心となり、チームで行事等の企画運営を行うことができています。 △本校は小規模校で一人当たりの業務負担が多いので、さらに効率よく仕事を進められるよう、日頃の声かけ、職員間のコミュニケーションを密にし、さらに働きやすい職場づくりに取り組む。
	2 生徒指導・教育相談・特別支援教育における校内体制を充実させることができた。	A	○生徒指導・教育相談・特別支援教育委員会を毎月実施し、発生した課題や進捗状況、課題解消後の様子等を報告・共有することで、管理職や校務分掌主任を中心とした組織的対応を進めることができた。
	3 安全安心な学校を構築するよう、迅速な報告・連絡・相談をすることができた。	A	○生徒指導事案や施設の修繕等、問題が発生した際には、管理職への即時報告・連絡・相談を徹底するとともに、対応方針を共通理解して組織的に問題解決にあたることで、安全安心な学校づくりができた。
学習指導	4 個別最適な学びと協働的な学びの一体化を意識した指導をすることができた。	B	○ICT 端末の活用や TT・習熟度別指導等の少人数指導の実施、ペア・グループ学習の工夫に取り組むことができた。 △ICT端末の活用方法について研修を深め、指導を充実させる。
	5 GIGAスクール構想の実現に向け、ICT機器の効果的な活用をすることができた。	B	○ICT端末操作研修やアプリ活用研修を行い、学校課題研究を通して実践力を高めることで、教員の指導力を向上させることができた。 △校内研修を増やして、ICT機器の効果的活用について研究をさらに深める。
	6 児童は、何事にも最後まであきらめずに取り組むことができています。	B	○分かる・楽しい授業の工夫により児童の学習意欲を高めるとともに、家庭学習の充実に取り組むことで、学校・家庭における学びに向かう姿勢を向上させることができた。 △ICT 端末やオンラインドリル等を活用した個別最適な学習への取組を全校で推進し、自ら進んで学ぶ児童を育成する。
学級経営・生徒指導	7 あいさつと返事について指導を徹底することができた。	A	○「あいさつ日本一・返事日本一」を本校の指導の重点とし、全校で取り組むことで、自ら進んで、笑顔で、目を見て挨拶をすることができる児童が増えた。
	8 青空タイムや昼休みに外遊びを励行することができた。	B	○どの学年でも中庭が使えるようにしたり、休み時間にバスケットボールを校庭に出したりして、外遊びに向かう環境を整えた。 △室内遊びや読書を楽しむ時間を確保しながら、全校で遊びや運動に取り組む時間を設け、運動に親しむ環境を整える。

学級経営・生徒指導	9 一人一人のよさを認め、かけがえのない存在として互いに大切にす る心の育成をすることができた。	A	○「It's okay!みんなちがっていい」を合言葉に、業前活動や授業、学校行事等で非認知能力の育成に取り組むことで、互いに認め合い、助け合おうとする態度を養うことができた。
	10 いじめのない学校づくりに取り組むことができた。	B	○校長による児童との1on3ミーティングの実施、スクールカウンセラーとの全員面談、毎月の学校生活アンケートの実施、いじめ問題への組織的対応等、多角的にいじめのない学校づくりに取り組むことができた。 △問題への対応について、保護者との連携をさらに密にしていく。
	11 児童は元気に楽しく学校に通うことができている。	B	○個別最適な学びと協働的な学びの充実、なかよしタイムや全校遠足での異学年交流の活性化等、教育活動の工夫により学ぶ意欲を高めることができた。 △生徒指導問題は組織的対応を充実させ、速やかに解消への手立てをとっていく。体調を崩しやすい児童については健康管理について保護者への啓発を進める。
	12 児童は友だちと仲良く生活をする ことができている。	A	○業前活動にこころのじかんを設定し、他者理解や自己理解を深める取組を進めたことで、児童の自己肯定感を高めることができた。
地域連携	13 ゲストティーチャー等、地域との連携を図った教育活動を充実させることができた。	B	○外部講師やゲストティーチャーによる授業、地域の方による読み聞かせ全学年で行い、地域連携・教育活動を充実させることができた。 △実施時期や回数、学年等を見直し、さらに効果的な活動となるよう工夫していく。
	14 だよりやホームページ等を保護者・地域に積極的に情報提供することができた。	A	○学校だより、学年だよりを毎月発行、平北ニュースを毎週更新することで、保護者や地域等に、本校の特色や工夫した取組について広く情報公開することができた。